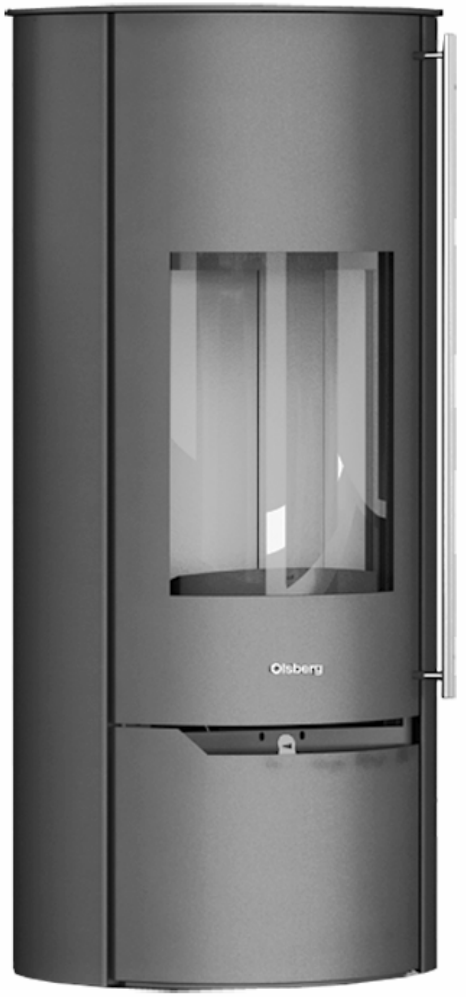
Tolima Aqua Compact 23/559

取扱説明書



Olsberg

目次

はじめに 2
仕様 2
準拠関連規格 2
煙突の設計 3
燃焼用空気の給気 3
ストーブの設置 3
配管 3
配管 4
周辺機器の接続 4
温度差制御装置 4
運転 5
初めて加熱する前は以下にご注意ください。 5
着火 5
空気調整レバーの操作 5
火床の操作 6
暖房 6
季節の変わり目の暖房 6
天然石の外装 6
重要なお知らせ 6
掃除 7
配管の掃除 7
交換部品 7
トラブルシューティング 7

はじめに

このたびはオルスバーグのストーブをお買い上げいたたきまして誠にありがとうございます。
ご使用の前にこの説明書をよくお読みのうえ正しくお使いください。
本書は、暖房が必要な季節になる前に目を通すことができるよう、安全な場所に大事に保管しておいてください。

本機は近代的暖房技術から生まれた最高品質のストーブです。

快適であるだけでなく燃費も良いため、心地よい火のぬくもりを活かした上質な空間暖房にお使いいただけます。

ストーブに装備された温水技術は、既存の施設または新規のセントラルヒーティングや産業用温水装置をコスト的に効率良くサポートします。

ストーブを長く使用するためには、設置や取り扱い、および手入れを正しく行うことが不可欠です。本書の記載事項をすべて守り、本機を存分にお楽しみください。

万一、輸送中に生じた破損にお気づきになりましたら直ちに販売店にお知らせください。直ちにお知らせいただけない場合には無償対応の対象外となりますのでご了承ください。

仕様

-	定格出力	[kW]	10.0
-	背面煙突中央部高	[mm]	1,178
-	上面煙突上部高	[mm]	1,311
-	煙突径	[mm]	150
-	重量（外装：鉄）	[kg]	240
-	燃焼空気口高　中央部	[mm]	280
-	外気取入口径	[mm]	125
-	運転方式	断続燃焼	

準拠関連規格

- ストーブ設置、煙突工事は建築基準法及び消防法に従ってください。
- ストーブの設置と煙突工事は専門業者に依頼してください。また、配管を安全に行うため、国内で定められた関連の法規を遵守してください。
- 本機は欧州規格EN13240（薪ストーブに関する規格）適合品です。

本機の燃焼室のドアは自動的に閉じるため、本機の煙突に他のストーブの煙突を複数接続することが認可されています。

燃焼用空気は十分に取り入れられるようにしてください。また、可能ならば外部から燃焼空気を取り入れるようにしてください。専門的な助言は煙突メンテナンス業者、ストーブ販売専門業者、または熟練した経験者にお問い合わせ願います。

煙突の設計

煙突は、欧州規格EN13384-2（煙突関連規格）
又は特定の国内法規に準拠して設計されています。

性能:
ドア閉運転時：

・ 定格出力	[kW]	10.0
・ 排気物量	[g/秒]	11.0
・ 排気温度	[℃]	270
・ 定格出力時の最小出口圧	[Pa]	12

出力圧力が高過ぎる場合には出力圧力制限安定化装置(煙突内取り付け)を設置してください。出口圧力測定はストーブ使用開始時に改めて行うことをお勧めします。出口圧力測定は煙突が暖まってから行ってください。

燃焼用空気の給気

十分な燃焼用空気が送られるようにしてください。

重要事項:
燃焼用空気の取り入れ口と対流用の開口部は閉じたり蓋をしたりしないでください。

注意事項:
ストーブ設置場所の中で換気用のフードや換気装置と暖炉を同時に使用すると適切にストーブが燃焼しないことが生じる場合があります。設置工事を行う前に、同時に使用しても問題がないか確認してください。

外気燃焼用空気接続

ストーブが設置されている部屋からストーブに直接燃焼用空気を取り入れるのではなく、室外から燃焼用空気を取り入れる場合、ストーブ背面下部の125mm径のパイプを外気取り入れ口に接続します。3m以上の外気取り入れパイプを取り付ける場合、計算して燃焼用空気の取入れが十分であることを確認してください。

ストーブの設置

ストーブを設置する床は、平らで水平で、ストーブの重量に十分に耐えられることが必要です。また、床材を保護するためにストーブの下に金属製のシートかガラス板を敷くと良いでしょう。床材やカーペットが可燃性の場合、燃焼室の開口部の縁から前50cm、両横30cmを覆うように堅固な耐熱材を敷いてください。

ストーブの組立順序

- 150mm径のパイプを上面か背面に接続することができます。
- 納品時には、パイプを上面に接続するようになっています。背面への接続をご希望の場合には以下の手順で必要な変更を行ってください。
  - 背面にあるカバーのネジを外します。
  - 背面の密閉キャップを外します。また、接続パイプが回転しないよう、ドライバーを使って固定します。
  - 背面の穴から接続パイプのネジを外します。
  - 密封キャップ/接続パイプの変更が済みましたら、上面にある穴に同梱のキャップを差し込んでふさぎます。
- ストーブの設置場所を決めます。ストーブの熱が輻射される部分から80cm以内（燃焼室の点検窓から測定）に可燃性のものがあったり、後で可燃性のものを置いたりしてはいけません。
  可燃物および耐加重壁からの離隔距離：
  側部10cm、背面部12 cm（国内関連規格に準拠してください）
- ストーパイプにパイプライニングを付けます（現場設置）。接続の高さは、上面のストーパイプ接続に合わせて個別に指定できます。ただし、コネクタスリーブから上限1.5m。ストーパイプを背面に接続する場合の高さについては、前述の「技術データ」一覧をご覧ください。ストーパイプの半径
  20cm以内では可燃性材料を使用することはできません。
- 本体の150mm径の連結管にストーパイプを付けます
  （現場設置）。
- 所定の位置までストーブを押し、ストーパイプがパイプライニングにはまるように位置を調整します。

ストーパイプの接続部分は密閉されていなければなりません。また、ストーパイプは煙突の中にはみ出さないようにしてください

配管

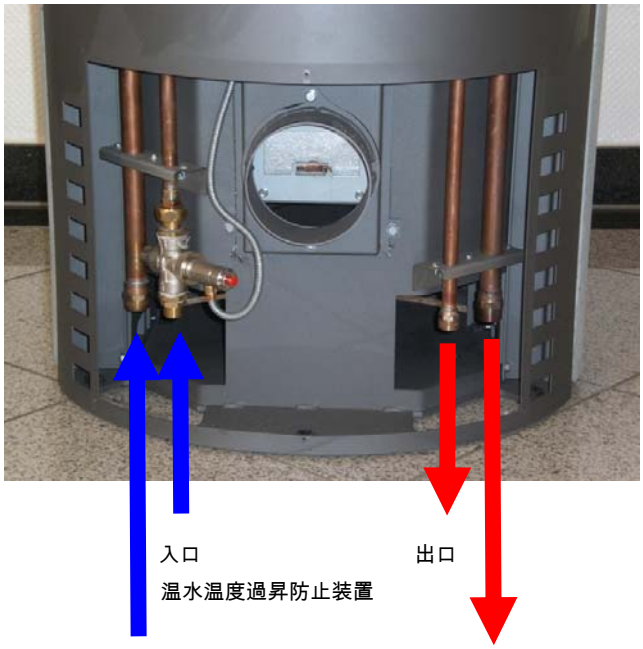
重要事項:

- 配管を安全に行うため、国内で定められた関連の法規を遵守してください。
- 送水管の設置及び電気工事全般は専門業者に依頼してください。
- 温水暖房器などに配管する際は、以下の製品と同等な規格･仕様の機器を推奨します。
  - 混合３方向弁（ポンプ内蔵）（LTC100：ESBE社製)
  - 温度差制御装置（TDC1：SOREL社製）

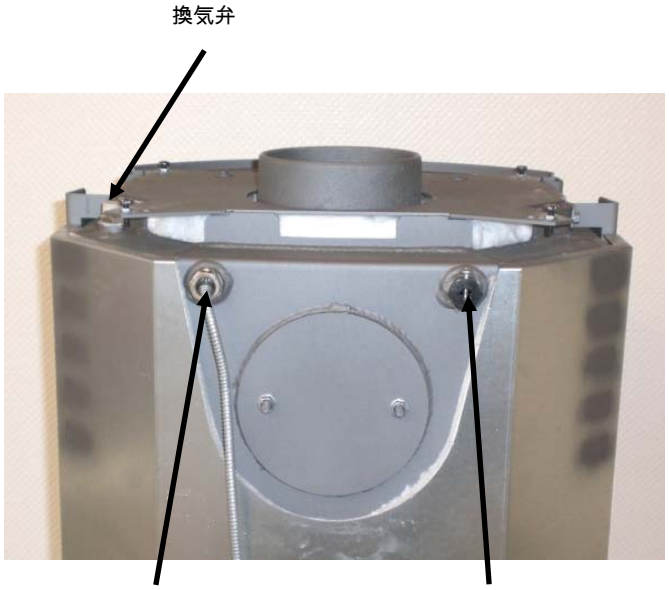
上記推奨製品についての組立や操作はそれぞれの機器の取扱説明書に従ってください。

- 必要な安全装置のほかに、リターンフローの温度を最低でも55℃まで上昇させる混合3方向弁取り付けてください。（LTC10にはこの機能が含まれております)。
- ストーブは絶対に水なしの状態で運転しないでください。
- 温水機能は、温水温度過昇防止装置が正しく設置されていない場合は絶対に運転しないでください。

配管



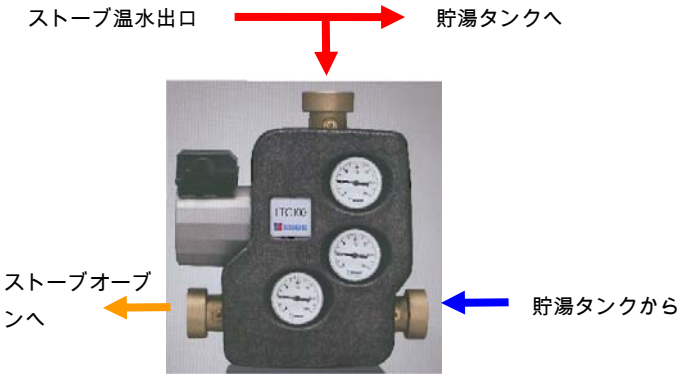
配管は、床または背面のパネルを通して設置することができます。
背面から接続する際には
背面のパネルにマークされている穴を打ち抜いてください。



水の熱交換器用の温度センサーを取り付ける際にはオーブンの背面のパネルを取り外してください。温度センサーはスライドさせて右側にある温度計ポケットに入れ、ねじで固定します。

周辺機器の接続

取付



LTC100

- 混合３方向弁の温度を55℃に設定してください。（設定温度は適宜に設定してください）
- 内部循環機能も組み込まれているため、例えば電源が切れて循環ポンプが止まっても貯湯タンクに温水を溜めることができます。
- 初期設定ではこの内部循環機能はOFFになっていますので、必要な場合は適宜ONにしてください。内部循環機能をONにする方法については、別途装置に添付されている説明書に従って行ってください。

温度差制御装置

TDC1

- 温度差制御装置は、温水とは関係なく循環ポンプの制御を行い、貯湯タンクよりもストーブ内オーブンの中の水温が高いときにだけ循環ポンプが作動するようにします。
- 納品時には温度センサーPt 1000が2個同梱されています。
- これらのセンサーは、オーブンの水の熱交換器と貯湯タンクの中にあるスリーブに付けます。

温度差制御装置の組み立てと取り付けは、別途装置に添付されている説明書に従って行ってください。

運転

燃料

ご使用いただける燃料は以下のとおりです。

- 自然木の薪
  最大長： 33 cm
  円周： 約30 cm

- ドイツ工業規格DIN 51731対応の木質ブリケット
  大きさクラスHP 2 ：直径又は幅 6-10cm
  長さ：20 cm

薪は、(積み上げた薪の上にカバーするだけの状態)
2～3年屋外に置いておくと含水率が10～15%になり、暖房用として理想的な薪になります。

切ったばかりの木は含水率が高くて燃えにくく、発熱量が大変低いだけでなく環境にも悪影響を与えます。また、凝縮物やタールの生成量が増え、炉や煙突に煤が溜まることがあります。

環境に優しい最適な燃焼と暖房を実現するため、前述の燃料を使用してください。燃料を少しずつ加えると不要な排気物が低減できます。耐火レンガが淡い色になることから燃焼がクリーンであることが分かります。

独国連邦排出抑制法では、ストーブで次の燃料を燃やすことは禁じられています。

- **湿気の多い木、又は防腐剤処理を施した木**
- **おがくず、切れ端、研削屑**
- **樹皮・廃合板**
- **粉炭**
- **その他の廃棄物**
- **紙・厚紙(着火時を除く)**
- **麦わら**

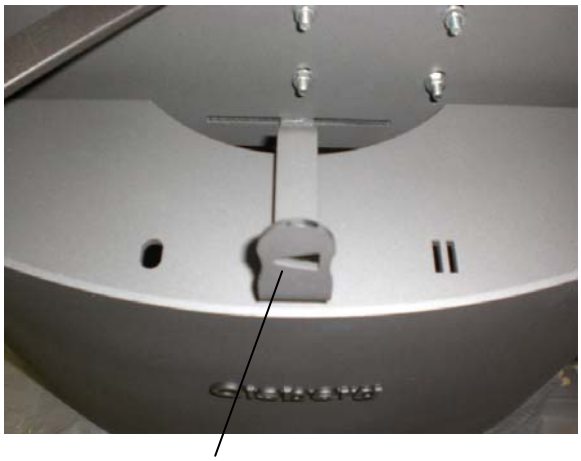
初めて加熱する前は以下にご注意ください。

- 最初に、灰受け皿と燃焼室からすべての備品を取り出してください。
- ストーブを数時間燃やすと保護塗装の蒸発に伴う悪臭がなくなります (部屋を十分に換気してください)
- ストーブには、高品質の耐熱性コーティングが施されていますが、このコーティングはストーブ使用が加熱されて初めて最終的な強度に達します。
  - 従って、塗料のコーティングが破損するおそれがありますので、ストーブに何か物を置いたままにしたり、ストーブの表面を触ったりしないでください。

着火

- 灰受け皿に何もないことを確認して、灰受か皿をスライドさせて元の位置に戻します。
- 一次及び二次給気口を開けます。
- 焚き付け材(紙、着火剤、着火用の細い木など)を置いて火を付けます。
- 焚き付けに火が付くように燃焼室の扉を閉じます。
- 焚き付け材が十分に燃えたらすぐに少量の薪を加えます。

空気調整レバーの操作



空気調整レバー

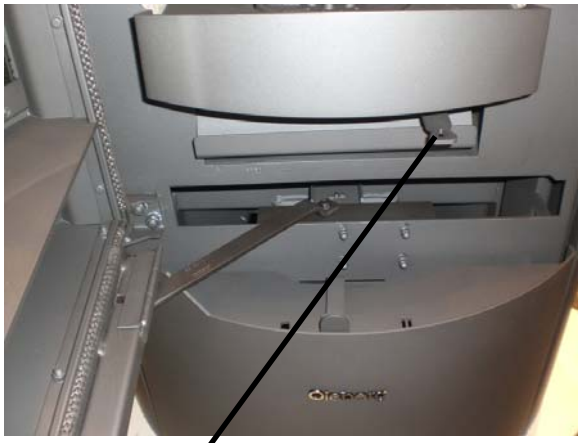
調整レバー「0」：全空気調整レバー全閉
調整レバー「I」：二次空気調整レバー全開
　　一次空気調整レバー全閉
調整レバー「II」：二次空気調整レバー全開
　一次空気調整レバー全開

レバーの位置:

“II” 着火位置 最大出力
“I” 太い薪を焚いた時の定格出力
“I” 木質ブリケット焚いた時の定格出力
“0” おき火

- 二次空気にはガラス板をきれいに保つ働きもあるため、レバーは最低でも「I」にしておいてください。
- 運転をしていない場合、部屋の温度が下がりにくいようにレバーは「0」に設定してください。

火床の操作



火床操作レバー

レバーで火床を開閉し、火床を前後に振って燃焼室から灰受け皿へ灰を落とすことができます。一次燃焼用空気が燃焼室に入ることができるのは操作レバーが「開」に設定されている場合には限られます。

暖房

- 好みの温度にするために必要な量の燃料を入れます。

  定格出力10kWの場合:
  - 薪：最大3.0kg
  - 木質ブリケット：最大2.6 kg

- 新しく燃料を加えたら、燃焼ガスが燃焼室の外へ漏れないようにゆっくり燃焼室の扉を開けます。
- 灰受け皿や燃焼室にたまったものは、放っておくと燃焼用空気の取り入れ口が塞がったり火床が破損したりする可能性があるため、適宜捨ててください。
- 灰受け皿にたまったものを捨てるときには灰受け皿のみを取り出します。燃料を焚いている間は、灰受け皿部分の扉は常にしっかりと閉めておいてください。
- 灰受け皿部分は、灰受け皿を外して定期的に(電気掃除機などを使って)掃除し、こぼれた灰をきれいにしてください。

ご注意:
ストーブ内の燃えカスなど残留物ストーブが冷めるのを待ってから取り出してください。

季節の変わり目の暖房

ストーブを十分に機能させるためには出口圧力
(煙突の通風)が正しいことが必須条件ですが、出口圧力は外気温に大きく依存します。外気温が16℃以上になると出口圧力が乱れる可能性があります。

対応

- 一次空気調整レバーはできるだけ開きます。
- 燃料は少しずつ加えます。
- 頻繁に灰をかき混ぜます。

天然石の外装

- 本機で使用されている天然石の外装は石に亀裂が入るため、熱しすぎないでください。
- 暖房には最大3
  kgの木かブリケット(適当な薪2本又はブリケット1.5個)をお使いください。
- 外装は「巨大な」玉石を原料とする天然石ですので、構造や色合いに大きなバラつきがある場合があります。
- 表面は温度の影響で変化する場合があります。

重要なお知らせ

ストーブに定格出力を著しく超える負荷がかかっている場合や定格出力以上の負荷が常にかかっている場合、又は所定の燃料以外の燃料が使用されている場合、メーカーの保証対象外となります。

- ストーブは必ず燃焼室の扉を閉じた状態でお使いください。
- 高温の灰を取り出さないでください。また、灰は、必ず耐火性、不燃性の容器に入れて保管してください。
- **ご注意**:
  表面は高温になります。ストーブを操作する際には必ず同梱の手袋をご使用ください。
- 着火に揮発油、ベンゼン、その他の可燃性の危険物を使用しないでください。
- 燃焼用空気の給気用付属部品は絶対に改造しないでください。特に、薪を焚いているときには必要な燃焼用通気口が確実に開いているようにしてください。
- ストーブの変更や改造を行わないでください。

掃除

箇所	頻度	使用するもの
ストーブ内部	最低1年に1回	ハンドブラシ、電気掃除機
接続部分	最低1年に1回	ハンドブラシ、電気掃除機
ガラス・パネル	適宜	ストーブが冷めているとき： ストーブとガラス面にガラス・クリーナーが使用可能です

配管の掃除

- 上側の燃焼室の配管の掃除は定期的に行ってください。掃除の頻度は汚れ具合により異なります。
- その際には、燃焼室のディフレクターを外し、燃焼室の扉の上の点検口のねじを外してください。
- この装置の掃除はワイヤーブラシを使用してください。

交換部品

注意:

必要な交換部品については必ず指定販売店からお求めください。また、交換部品は必ず所定のものをご使用ください。

ご注文に迅速に対応するため、本体の銘板に記載されている型式番号と製造番号を必ずお知らせください。

ストーブの登録番号票は、薪の収納棚の左側にあります。

銘板に記載されている番号は、いつでもすぐに分かるように、ストーブを設置する前に以下に書きとめておくことをお勧めします。

型式番号: 23/_____

製造番号: _____

トラブルシューティング

ストーブの吸い込みが悪い。

- 煙突またはストーブパイプから空気が漏れていませんか?
- 煙突の設計が間違っていませんか?
- 外気温が高過ぎませんか?
- 煙突に接続されている他のストーブなどの扉が開いていませんか?

部屋が暖まらない。

- 要望の暖房温度が高過ぎませんか?
- 排気管が詰まっていませんか?
- 一次空気調整レバーが閉じていませんか？
- 煙突のドラフトが低過ぎませんか?
- 燃料用の薪は十分乾燥していますか?

ストーブが熱すぎる。

- 一時空気調整レバーが開きすぎていませんか？
- 灰受け皿部分の扉はきちんと閉まっていますか?
- 出口圧力が高過ぎませんか?

火床が破損する、又は煤が形成される。

- ストーブに負荷がかかりすぎていませんか?
- 灰受け皿に灰などがたまっていませんか？
- 灰受け皿部分の扉はきちんと閉まっていますか?
- 出口圧力が高過ぎませんか?

オルスバーグ薪・ペレットストーブ　保証書

型番：

製品番号：

ご住所　〒

TEL　　(　　)

ご芳名　　様

★お買上げ年月日　　年　　月　　日

★お買上げ店名

住所　　〒

TEL　　(　　)

お買い上げになった日から起算して２年間。但し、外装品およびガスケット、火格子など消耗品は保証対象外となります。製造上の欠陥により故障のあった場合は無償にて故障部分を修理/交換いたします。

輸入販売元

〒113-0033　東京都文京区本郷６－１７－９
本郷綱ビル６F

オルスバーグジャパン株式会社

TEL 03-(5805)-5901 FAX 03-(5805)-5902

無償修理規定（必ずお読みください）

1. 取扱説明書などに従った正常な使用状態で故障した場合には保証期間内に於いて、販売店が無償修理いたします。
   保証期間内に故障して無償修理を受ける場合は本保証書を販売店にご提示ください。
   尚、離島並びに離島に準ずる遠隔地への出張修理の場合は、出張に要する実費を申し受けます。
2. ご転居・ご贈答等で、本保証書に記入してある販売店に修理がご依頼できない場合は弊社にご相談ください。
3. 保証内でも次の場合は有償修理となりますので予めご了承ください。
   イ) ご使用上の不注意、過失による不具合及び不当な修理や改造による故障又は損傷。
   口) お買上げ後の取り付け場所の移設、落下等による故障または損傷。
   ハ) 指定外の電源（電圧・周波数）で使用した場合の故障又は損傷。
   二) 火災、塩害、ガス害、地震、風水害、落雷、その他天災地変、公害等による故障又は損傷。
   ホ) 業務用として長時間使用又は車両、船舶等に備品として搭載された場合の故障又は損傷。
   ヘ) 砂やほこり及びごみ等における不具合、故障又は損傷。
   ト) 本保証書にお買上げ年月日・お客様名・販売店名など、所定事項の記入がない場合、又は、記載字句を書き換えられた場合。
   チ) 本保証書の提示がない場合。
4. 保証修理、交換後の保障期間は最初の保証期間の残りの期間といたします。
5. 当製品の機能部品の供給は生産中止後10年間とします。
6. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
7. 本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

オルスバーグジャパン株式会社

〔本　　社〕〒113-0033　東京都文京区本郷６－１７－９　本郷綱ビル６F
TEL ０３（５８０５）５９０１　FAX ０３（５８０５）５９０２

〔札幌営業所〕〒062-0042　札幌市豊平区福住2条10丁目1-10
TEL ０１１（８５３）９９００　FAX ０１１（８５３）９９１１

〔仙台営業所〕〒983-0861　仙台市宮城野区鉄砲町72-2　ボヌールエスト
TEL ０２２（２９２）７１９１　FAX ０２２（２９２）７１９２

〔北陸営業所〕〒939-8136　富山県富山市月見町1丁目44番地
TEL ０７６（４２９）２６０２　FAX ０７６（４２９）２６０４

78/4623.5599　03/2010